

特別企画セッション「始めよう！実践研究」

尾関史（早稲田大学）・宮崎七湖（同）

1. 本企画の趣旨

本セッションは、実践研究フォーラム第10回の開催を記念して、委員特別企画セッションとして企画されたものである。セッション企画の趣旨として、1) これから実践研究をしてみたいと思っている人が実践研究を始めるためのヒントや実践研究のイメージを得ること、2) 自分の実践を他の人に伝えられるようになること、を目指して参加者を募った。セッションでは、発題者と参加者、そして、参加者同士のやりとりを通して、実践研究を始めるために以下の3点について考えていくことを目的とした。

1. 自分がなぜこの実践をやっているのかを明確化する
2. 自分の実践を実践研究にするための計画を立てる
3. 自分の実践を他の人に伝えられるようになる

2. 本セッションの流れ

当日のセッションには30名近くの参加があった。それぞれ5～6名程度の小さなグループに分かれ、活動を行った。セッションは大きく3つのパートから成っていた。以下、それぞれのパートごとに活動の目的と大まかな流れを述べる。

1) 自分の実践を振り返る

まずは、自分の実践を他者に伝えるためにはどのような要素が必要かを考えること、そして、必要な要素に従って自分の実践を他の人に説明するという活動を行った。具体的には、自分の実践に関する「キーワード」をできるだけたくさん出し、出されたキーワードをグループにまとめながら整理していった。その後、整理されたキーワードをもとにして、自分の実践をグループの人に説明しながら実践を改めて振り返る機会とした。

2) 実践研究の問いと方法を考える

次に、自分の実践を振り返り、実践において目指しているものや大切にしていること、問題だと思っていることは何かを考え、参加者間で伝え合う活動を行った。まず、「自分の実践が目指しているもの」や「自分の実践で問題だと感じていること」をワークシートに書き出した。その後、ワークシートをもとに、日々の実践をよりよいものにしていくための「問い」を立て、その問いに答えるために何をすればよいのかを考え、実践を実践研究にしていくためのプロセスをイメージしていった。

3) 自分の実践を他者に伝える

最後に、自分の実践を他者に伝えていくために必要な要素について考えた。そして、必要な要素にしたがって、1)、2)の活動をもとに自分の実践を整理し、グループの中でそれぞれの実践を伝え合う活動を行った。

3. 参加者からの声

セッションに参加した参加者からのアンケートをもとに、セッションを振り返ってみたい。

1) セッションに期待したもの

本セッションの企画の趣旨にある通り、「実践研究をこれから始めてみたい」、「実践研究とは何かを知りたかった」という参加者が大半を占めた。また、すでに実践を行ってはいるが、それを「どう研究にしていけるのかを知りたかった」、「日々の授業を振り返る時間が欲しかった」という参加者もいた。概ね、趣旨に沿った期待を持った参加者が多かったといえるだろう。

2) 参加して感じたこと

実際にセッションに参加してみて感じたこととして、「学んだこと・得られたこと」と「もっと詳しく知りたかったこと」の双方が挙げられた。

学んだこと・得られたこととして挙げられていた意見としては、「いろいろな現場の先生方と意見交流ができてよかった」、「悩みが共有できてよかった」、「グループの人からたくさんアドバイスをいただいた」、「いろいろな現場の課題を知り、興味深かった」など、異なる現場の様子を知ったことやその実践について他者とやりとりしたことへの満足感が見られた。また、他者と話をすることで「自分の中にある問題や課題が明確化された」という意見や「研究をする前にどのような準備をすればよいか」、「自分の発表の反省点が分かった」など、自身の実践や研究をメタ的に捉える視点を持てたという意見もあった。小さなグループでのやりとりの中で自分の実践を改めて振り返り、掘り下げていったことが有意義な経験として意味づけられていることが窺える。

一方、もっと詳しく知りたかったこととしては、「実践報告と実践研究の違い」、「実践研究の例や定義」といった実践研究そのものの捉え方に関するもの、「よい実践研究の例」、「よい問いとは何か」といった実践研究をよりよくするための指標に関するものが挙げられた。また、「問いを具体的に方法にしていくための考え方」という回答からは、問いを実践研究にする難しさが実感されていることが窺える。さらに、「問題点の解決法」という回答があったが、これを考えていくことが即ち、実践研究のプロセスだと言えよう。以上の「もっと詳しく知りたかったこと」には、一つの明確な答えがあるわけではないが、参加者それぞれが「実践研究」について大まかなイメージを持ち、そのイメージをさらに明確化していくための問いが出されているように思われる。

4. おわりに

参加者のアンケートから、セッションを通して、参加者の多くが自らの実践を振り返り、それを他者に伝える中で、実践を実践研究にしていくための大まかなイメージを持つことができたと言えるだろう。そのような意味で、本セッションの目的は達成できたと考えている。一方で、もっと知りたかったこととして挙げられた事項に関しては、実践に関わる私たちそれぞれが、まずは自身の実践をよくするために、そして、それを他者と共有することで日本語教育をよりよいものにしていくために試行錯誤していく中で、それぞれにとっての実践研究のあり方が見えてくるのではないかと思う。今後、そのような場の一つとして実践研究フォーラムを活用していただければうれしく思う。